



記録管理学会の活動

記録管理学会の活動は、記録管理に関する異業種交流に大きな特徴があります。

現在会員は200名(正会員・学生会員)ほどですが、文書館・図書館・企業の資料室等で働く現場の担当者から、記録管理や隣接分野の研究・教育をすすめる大学関係者、さらには記録管理ツールを開発・販売する企業の技術者や販売担当者、ツールの使用技術やアイデアを研究し提供するコンサルタントの方々など、メンバーのお顔を思いっただけでも実に多様な人々が、記録管理というひとつのテーマの下に集っています。

また、団体会員(現在7団体)として自治体文書館、大学図書館、研究機関等が参加しており、賛助会員にはオフィス・ツール・メーカーを始め十数社が名を連ねています。

具体的な活動としては、

- ①ほぼ月1回の割で開催される例会
- ②有志メンバーによるテーマを掲げた研究会
- ③学会誌「レコード・マネジメント」の発行
- ④「RMSJニュースレター」による各種情

報提供

⑤年1回の研究大会開催

⑥その他共催を含む各種セミナー、等々です。

①の例会は異業種交流を意識した多彩なプログラムが組まれています。この半年間の各回のテーマをご紹介します。

- ・1月16日(第58回)コンピュータネットワーク時代の企業文書管理 於:精華生涯学習ルーム(大阪) 講師:壺阪龍哉氏(駿河台大学、会員)
- ・1月28日(第59回)情報センターおよび劇場関連施設の見学 於:新国立劇場情報センター(東京) 講師:仲野憲一氏(同情報センター長)
- ・3月16日(第60回)虎屋文庫の活動紹介と同文庫で開催の「日本人と小豆」展の見学 於:虎屋虎屋文庫(東京) 講師:青木直己氏(虎屋文庫、会員)
- ・5月29日(第61回)大阪府公文書館の文書管理とサービスについて 於:同館(大阪) 講師:中村恵信氏(同館、会員)
- ・6月10日(第62回)全日空(株)の図書室及び歴史展示室の業務についての説明と見学 於:全日空(株)総務部資料管理所(東京) 講師:勝村利行氏(同所)
- ・7月8日(第63回)神奈川県立川崎図書館のリニューアルの概要説明と見学 於:同館(神奈川)

例会は会員外の方の参加も大歓迎です(有料のこともあり)。開催地については、昨年度から積極的に東京近辺以外での開催をすすめています。

②の研究会は「記録管理基本問題研究会」といって、「日本における21世紀の記録管理のあり方」をテーマに、メンバー制で活動を行っています。メンバーは会員資格に関係なく主体的に活動できる方が中心に集まっています。興味のある方はお声を掛けてください。

③・④の刊行物については、従来の機関誌が研究活動と情報発信の二面を持っていたの

に対し、98年度から学会誌とニュースレターに内容を分離しました。「レコード・マネジメント」(年2回発行)は学会誌としての内容の充実を目指し、「RMSJニュースレター」(年4回程度発行)は情報発信の速報性、会員相互の親睦性を重視した内容にしていこうという試みです。学会誌編集については新たに編集委員会を設け(編集委員は現在も募集中)、異業種交流の持ち味を生かしながら、さらに内容の幅を広げていこうとしています。1998年9月発行予定のNo.37から徐々に内容を変えていきます。

⑤の研究大会は、学会総会と共に毎年春に行われますが、今年は5月22・23日に仙台の宮城学院女子大学で開催されました。

大会テーマは「グローバルスタンダードとレコードマネジメント」。記念講演会と会員による研究発表の内容を次に掲げます。

〔記念講演〕

- ・「情報公開法—立法の意義と問題点」朝日新聞東京本社 社会部記者 久保谷洋氏
- ・「ISO9000シリーズと文書管理」東北リコー(株)取締役電装品事業本部長 平塚武文氏

〔研究発表〕

1. 自治体の情報公開事例：小谷允志(オフィス総研)
2. インターネット—世界市民としての発想：桂啓壮(駿河台大学)
3. グローバルスタンダードと文書館：吉田千絵(北海道立文書館)
4. 民事訴訟法改正と文書管理：村岡正司(オフィス総研)
5. ファイリング・デザイナー検定—現状と課題：原田利行(日本経営協会)
6. EDMS(エンタープライズ・ドキュメント・マネジメント)のコンセプト：芹澤和彦(日本IBM)

研究発表の内容を大雑把に分けますと、1は情報公開関係、2は図書館情報学の立場から、3は文書館関係、4はオフィスの文書管理、5はファイリング技術、6は文書管理ツール開発となって、テーマに関連付けて多種

多様な内容が採り上げられています。

大会開催前には地元仙台市立博物館で「伊達治家記録について」の講演(講師：同館学芸員 荒井聡氏)と見学もありました。今年もまた、日頃はなかなか参考書をひもとくことの少ない異業種の文書管理に関わる内容に、直に触れることのできた2日間でした。

⑥について、最近では次のような事業が開催されました。

- ・文書管理の実践的改善法セミナー(1997年9月16日開催、於：東京、主催)
- ・電子博物館シンポジウム(1997年12月18日～19日開催、於：大阪、アート・ドキュメンテーション研究会、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会と共催)
- ・電子情報化の動向と記録管理(1998年2月4日開催、於：東京、主催)

これらの事業は一般向けの外部講師も起用した大がかりなもので、いずれも参加者100名を越すものでした。手間は大変ですが、こうした事業の開催は、当学会の重要な収入源のひとつともなっています。

電子化の進展や国際・情報化の波に押されて、「内部」の仕事であったはずの記録管理の世界でも「いかに情報を得るか」が重要なポイントとなって来ています。そうした意味で当学会は、それぞれの現場から生の情報の得られる貴重な「場」であると言えます。

入会についての連絡先は、慶應義塾大学三田メディアセンター 村上篤太郎(当会事務局)まで：電話 03-3453-4511(内2533)

学会誌への投稿希望、お問い合わせは、駿河台大学文化情報学部 金容媛(同編集担当理事)まで：電話 0429-74-7123

学会のホーム・ページがありますので覗いてみてください。「記録管理学会入会申込書」のフォームもあります。

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/rmsj>

細井 守・藤沢市文書館